

## “ 再度の心がまえ ”

園長 高杉 洋史



Photo by  
Hiroshi Takasugi



慣れというのは恐ろしいもので、社会全体の新型コロナウイルスに対するガードは下がってきているように感じます。私自身も、4月には食品を指でつまんで口にするなんて決してしなかったのに、いつの間にかミニトマトをつまんでいる自分があります。手洗いも頻繁にはしていませんが、洗いが、少し雑になっています。手洗い1回の時間は「ハッピーバースデー」のうたを1回歌う時間なんて言われていたのですが、今は「さいしよはぐー、じゃんけんぽん」くらいの時間に短縮になっています。東京周辺は第2波が始まったかもしれないと言われる昨今、もう一度基本に戻ろうと思えます。理事長はこんな風ですが、子どもたちは本当にまじめで、先日、教室そばの手洗いの排水が詰まりそうになりました。原因は石鹸でした。

トラップになっているところに、溶けかかった石鹸が溜まっていました。水遊びが好きな子どもたちのほうがはるかに、コロナ対策で上回っています。

理事長の一番の気かけりはスクールバスの三密です。最近のように雨続きでは窓を開けて走行するわけにもいかず、仮に開けても、バスの窓は安全上10センチも開かないようになってきています。天井に車載用プラズマクラスターがあり、3か月に一度整備工場がクレベリンで除菌してくれ、添乗の先生も次亜塩素酸水で、毎日、何度もバス内全般を拭いていますが、今のところこの対策で精一杯です。

ばい菌とウイルスは別物だし、ウイルスにも紫外線に強いとか弱いのか、消毒の薬品に強いとか弱いとかいろいろ異なるタイプがあるようです。私たちの対策が効果的であることを期待するだけです。

少しだけ安心材料は、子どもたちはこのウイルスに感染しにくいのもかもしれないという報道です。感染しにくい理由として指摘されるのが、ウイルスが細胞に感染する際の入り口となるACE2（アンジオテンシン変換酵素2）というたんぱく質で、新型コロナウイルスが細胞の中に入りこむ際に「足場」として利用するものが子どもは少ないようです。

一方、子どもがかかったら川崎病のような症状が出ることもあるとか、まだわかっていない事の多い新型コロナウイルスについて、安心材料は心強いのですが、大人は決して油断しないようにしましょう。

最後に自慢話を一つ。Zoomができるようになりました。やってみれば簡単でした。幼稚園と関係する会社との打ち合わせに利用し、園内に入る大人の方を一人でも少なくしています。出かける回数もできるだけ減らしています。こんな環境の中で人恋しくならないのは、幼稚園の子どもたちのおかげです。園長先生と遊んでくれてありがとう。

